

November / December
2022 No.20

A Newsletter from SCGO-JSOG Project
on Women's Health and Cervical Cancer

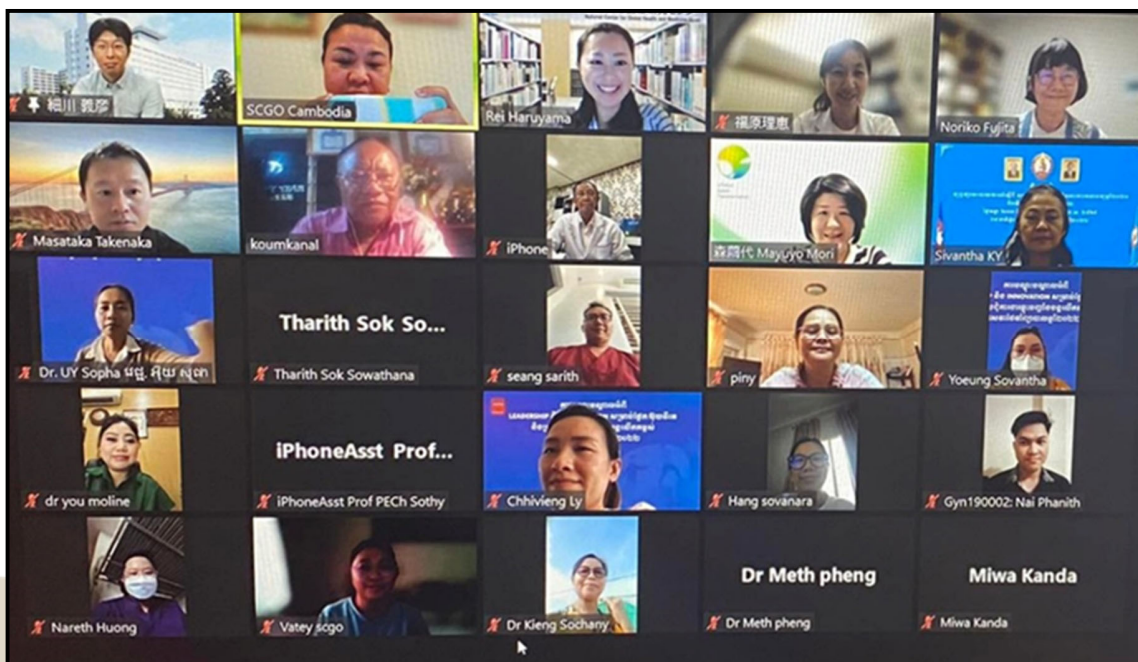
カンボジア 女性のヘルスプロモーションを通じた 包括的子宮頸がんサービスの 質の改善プロジェクト

JICA 草の根技術協力事業(草の根パートナー型)

PROJECT FOR IMPROVING THE QUALITY OF
COMPREHENSIVE SERVICES FOR CERVICAL CANCER

産婦人科診療ガイドライン<婦人科外来編>レクチャー企画 第3回セッションを開催しました

本事業計画における活動 2-5「カンボジア産婦人科学会(SCGO)のトレーナー能力強化」を目的として、幹事医師メンバーが、日本産科婦人科学会の産婦人科診療ガイドライン<婦人科外来編 2020>のクリニカルクエスチョンに沿ったレクチャー企画を定期的実施しています。11月12日、「良性腫瘍と考えられる卵巣嚢胞の鑑別診断と管理」(CQ219)をテーマに第3回セッションが開催され、竹中将貴医師(東京慈恵会医科大学)、福原理恵医師(弘前大学)、細川義彦医師(筑波大学)、森蘭代医師(東京大学)がレクチャーを行いました。SCGO側からは産婦人科診療の継続教育に携わる国立・州立病院医師約30名の参加がありました。



第3回セッションの様子

第21回カンボジア産婦人科学会シンポジウム (女性の健康セミナー)が開催されました

11月25-26日、第21回カンボジア産婦人科学会(SCGO)シンポジウムが、プノンペン市内ホテルで開催されました。今回は、全国から266名(男性医師115名、女性医師151名)の学会員の参加がありました。日本からは、大須賀穰渉外担当理事が開会の挨拶を行い、竹田純医師(順天堂大学)が「日本における分娩後出血の対応」という演題で、ショックインデックスや経腹超音波(FASO)による全身状態の評価、子宮腔バルーンタンポナーデ法および子宮圧迫縫合法による止血について講演しました。カンボジアにおいて分娩後出血対応は依然として大きな課題であり、質疑応答では、出血量の測定方法、バルーンタンポナーデ法の止血奏効率、バルーン使用の判断方法、帝王切開術後の使用可否など、多くの質問が挙がり、関心の高さが伺えました。



現地会場の様子

SCGOのスーン学術担当理事は、「子宮頸がん検診のトレンド」という講演の中で、検診が、一次検査(酢酸を用いた視診、細胞診、HPV検査)の実施に留まらず、病変診断と治療までを含むこと、患者をきちんとフォローすることの重要性について説明しました。カンボジアの病院では、個別IDやカルテがなかったり、複数の登録台帳(婦人科検査台帳、病理結果台帳、手術台帳等)がばらばらに存在したりするため、一人の患者のフォローアップが難しい場合がよくあります。病院全体のシステムにも関連するため容易に解決できる課題ではありませんが、本事業を通じて共に改善策を考えていきたいと思えます。



竹田純医師:オンラインでの講演

小学校教員への子宮頸がん検診(HPV検査)の提供開始



本事業では、活動1-7である「健康教育活動の評価を行う」ため、事業対象の小学校をランダムに2群(800名ずつ)に分け、健康教育の提供時期をずらして活動を進めています。

まだ健康教育を実施していない(=2回目の健康教育を受講する)群の対象者403名に対して、10月に検診受診勧奨(ポスター掲示、グループチャットでの連絡)を行い、12月に検診機会を提供したところ、57名(14%)の受診しかありませんでした。一般的な受診勧奨をしても受診率が低いことが分かり、来年2月に1回目の健康教育を行う際には、検診の有益性についてきちんと理解してもらえるよう工夫し、受診率の向上を期待したいと思います。

写真上: 検診後の説明の様子

写真下: SCGO カナール理事長(右)の監督下で検診を実施